第42回地方公務員共済組合連合会資金運用委員会議事要旨

1. 日 時：令和4年12月6日（火） 10:55～12:05
2. 場 所：地方公務員共済組合連合会 特別会議室
3. 出席委員：
 - ・若杉座長 ・川北委員 ・喜多委員 ・佐藤委員 ・竹原委員
 - ・高山委員 ・徳島委員
4. 議 事
 - (1) 令和4年度第2四半期の各積立金の運用状況（地共連）
 - (2) 令和4年度第2四半期の各積立金のリスク管理の状況（地共連）
 - (3) 外国株式アクティブ運用プロダクトの選定結果について
 - (4) 国内株式アクティブ運用プロダクトの選定結果について
 - (5) 令和4年度の資産配分状況について

〈議事の概要〉

- ・事務局から上記議題について資料の説明が行われた。
- ・その後、意見交換及び質疑応答が行われた。

- (1) 令和4年度第2四半期の各積立金の運用状況（地共連）
 - 今期の超過収益について、基本的には資産配分要因がかなり低く抑えられていて、個別資産でプラスに出ていることから、目指している方向と整合的な数字となっていて、いいと思う。
 - 厚年と経過で大分差が出ているのがオルタナティブ投資の影響ということで、今後、オルタナティブ投資がある程度、攪乱要因にはなってくると思うので、オルタナティブ資産と伝統的資産の影響を分けて見られるとより分かりやすい。
- (2) 令和4年度第2四半期の各積立金のリスク管理の状況（地共連）
 - 10年ぐらい前の欧州危機では、銀行問題で投資格付が3ノッチぐらいいきなり下がったことがあり、仮に投資適格の国々が外れるということになると、ロシアの損失どころの騒ぎではないと思われる。オルタナティブ資産の組み入れが分散という意味で寄与しているが、オルタナティブ投資だけではなく、外国債券については、ベンチマークの

分散などの工夫も必要なのではないか。

(3) 外国株式アクティブ運用プロダクトの選定結果について

- 外国株式の ESG プロダクトの採用については、ESG の社会的インパクトということは一切考慮せず、超過リターンに資するとの考えから ESG プロダクトを採用し、通常のアクティブ運用と同様に評価していくということか。
- 採用プロダクトと解約プロダクトを見ると、採用プロダクトのベンチマークはMSCI-ACWI と MSCI-KOKUSAI で、解約プロダクトはエマージングが多くなっている。今回、運用機関の入替えに当たっては、エマージングを減らすこととしたのか。
- プロダクトの評価期間については、ESG を主眼に置いた戦略は投資のホライズンが長く、10 年ぐらいのところも多いと思うが、採用された運用機関の投資ホライズンと、評価期間とは、平仄が合っているのか。

(4) 国内株式アクティブ運用プロダクトの選定結果について

- 外国株式と国内株式でヒアリング対象機関の選定方法、定量評価の部分の条件が違っている理由を教えてください。
- 外国株式で、今回 ESG を主眼としたファンドを採用しているが、今後、ESG ファンドをさらに増やす予定はあるのか。

以上